

社会

社会的な見方・考え方を働かせた深い学びを実現するための手立て

社会的な見方・考え方とは、社会的事象の事実を捉える「時間・空間・相互関係」などの視点や、捉えた事実を比較・分類したり関連付けたり、総合したりする方法です。児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせることができるように、資料を効果的に活用しながら単元などのまとまりの中で視点や方法に基づいた「問い」(発問)の構成を工夫していくことが大切です。

〔指導事例〕 中学校地理的分野 (第1学年)
世界の諸地域 ヨーロッパ州



単元の学習問題 統合によって、ヨーロッパに暮らす人々の生活はどのように変化したのか

本時のねらい 資料を基にEUが抱える課題について読み取り、その背景や影響を多面的・多角的に考察し、まとめることができる。

<取り上げる資料例> ①EU諸国の1か月当たりの賃金 ②EU加盟国の拡大 ③ヨーロッパ各国の工業生産 ④ヨーロッパに集まる外国人労働者

社会的な見方・考え方を働かせるための「問い」と学習活動

「問い」の基本形	「問い」を解決するための学習活動
どのように どのような	事象についての事実を調べる 事象の特色や意味を考察する
なぜ	事象間の因果関係や背景を考察する
どうしたらよいか	社会に見られる課題の解決に向けて 選択・判断(構想) する

- ・児童生徒の実態に合わせて、資料の加工や提示方法の工夫をします。
- ・深い学びを実現するためには、**考察や選択・判断(構想)の場面を充実させる**ことが大切です。

【生徒が見方・考え方を働かせて、捉えた事実を関連付けたり総合したりしながら考察している場面】

各資料から読み取った事実を関連付けて考察させます。



①～④の資料から読み取ったことを関連付けると、EUにはどのような課題があると言えますか。

遅れてEUに加盟した国は最低賃金が低く、工業生産額も低いと言えます。



言い換えると、遅れてEUに加盟した国と最初からの加盟国との間には、大きな経済格差があると言えます。



EUは経済面で支え合う仕組みなので、経済的に余裕のある国の負担が大きいのではないかと思います。



EU内はどこの国でも働けるので、最低賃金が低い国から高い国に外国人労働者の移動が多く、特にドイツやフランスに集中していることも課題です。



既習事項(下線)と関連付けて考察させることも大切です。

既習事項や「生活」と関連付けて考察させ、生徒の思考を深めます。

なぜ、外国人労働者の増加は課題となるのですか。学習したことを生かして受け入れる側の国や国民に与える影響を基に考えてみましょう。



企業は賃金が安い外国人労働者の方を雇うので、受け入れる側の国の国民が失業すると思います。



外国人労働者が国内に住むため、人口が増え都市の住宅問題も起こるかもしれません。



多様な民族が入り交じるので、考え方や生活習慣などの違いから対立が起こるのではないかと思います。



生徒から出された多様な考えを踏まえ、総合的に考察させます。

いろいろな考えが出ましたね。EUに見られる課題と、その背景や影響をまとめるとどのようなことが言えますか。

